



Title	1990年度大学公開講座
Author(s)	
Citation	年報いわみざわ : 初等教育・教師教育研究, 12: 57-57
Issue Date	1991-03
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/8562
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

1990年度 大学公開講座

岩見沢分校の平成2年度公開講座は、「21世紀へ向けて——生涯スポーツ・健康を考える」を総テーマとして掲げ、7月9日(月)から7月21日(土)までの2週間、月・木・土に曜日を限定し、都合6回、2名の講師によって行われた。受講者数は13名(男性7名、女性6名)だったが、その年齢層は幅広く20代から70代まで各世代にわたっており、すべての人間の各時期・各段階を通じての基本的活動のひとつとしてスポーツの意義を考える今回のテーマに対し、各年代層から大きな関心が寄せられたことをもの語っている。

中島武文教官の講義は、生涯を通じてスポーツ活動のできる楽しさや役割について、外国との比較をとおして考える「生涯スポーツ、その役割について」をはじめとして、スポーツ選手に必要な体力と一般社会人の体力とでは必要な要素が違うことを指摘した「生きるため必要な体力とは」、「スポーツと年齢、健康と栄養」「健康維持にスポーツは必要か」等、より良く人間が活動するための条件を実際的な体の動きを通して体得していく——そのことに示唆を与えるものであった。また金谷秀秋教官は、年齢や仕事に応じた健康のチェックがその診断法に基づいて可能なことを教示した「健康、そのとらえ方と維持の考え方について」「健康度合のチェック方法について」は、受講生に健康の自己管理を改めて認識させる手がかりをもたらした。「日常生活ではもう接する事の無かった研究・診断テスト、とても楽しく、自分を見直すチャンスでした」「スポーツ(運動)一つとっても、いろいろな事があるものだとして初めて知りました。これを機会にスポーツの考え方を勉強しようと思います」「体操、ジャズダンスで汗を流したので、心身共に軽快になり、大変良かったと思います」「自己採点方法は初めてで戸惑いましたが、頭の体操になりました」「自己管理は日常生活で最も重要な課題であることを認識しました」——これらが受講者の声であった。

何時でも、何処でも、誰にでも、学びたい時に自分の学びたい方法で学ぶことが出来る機会を地域に開放する、生涯学習体系の一環としての大学公開講座の意義とその必要性は益々高まっているといえる。